

生徒理解に根ざした生徒指導の充実に向けた生徒指導主事としての役割

ー協働支援体制の構築と豊かな人間関係づくりにつながる授業実践を通してー

前橋市立大胡中学校 小野里 聡

I 研究の背景

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）総則には、教育課程実施の配慮事項として、「生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること」と記されている。

本校の生徒は、明るく前向きで、何事にも非常に熱心に取り組む傾向にある。その一方で、不登校傾向の生徒が増加していることが課題となっている。生徒が不登校傾向になる要因は多岐にわたっており、これまで以上に一人一人の生徒を十分に理解し、組織的に指導を行う必要性が高まっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響から、生徒を取り巻く環境が劇的に変化し、学習場面や日常生活に対して様々な制約が生じたことで、例年以上にストレスを抱えている生徒が多いのが現状である。

そこで、本校の課題解決に向けて、生徒一人一人に寄り添った個別指導を充実させることが必要であると考えた。本年度、本校にはスクールカウンセラー（以下、SC）やスクールソーシャルワーカー（以下、SSW）、スクールアシスタント（以下、SA）、オープンドアサポーター（以下、ODS）、生徒指導嘱託員等、教職員とともに様々な立場から生徒を支援する関係職員が配置されている。本校教職員と関係職員を含めた協働支援体制の構築を図ることが、個別指導の充実につながるものと考えた。また、集団指導を充実させるために、自分の内面を見つめ直したり、自分も他者も大切にしたい関わり方を考えたりする授業実践や提案授業を行うことで、豊かな人間関係づくりができるようになると考えた。

本研究では、個別指導として協働支援体制を構築したり、集団指導として生徒の豊かな人間関係づくりにつながる授業を実践したりすることを通して、生徒理解に根ざした生徒指導の充実を目指した。また、その中での生徒指導主事としての役割について明らかにしていく。

II 研究の目的と方法

1 研究の目的

協働支援体制を構築したり、生徒の豊かな人間関係づくりにつながる授業実践を行ったりして、生徒理解に根ざした生徒指導の充実を図り、その中での生徒指導主事の役割を明らかにする。

2 研究の方法

(1) 協働支援体制の構築

個別指導の充実を図るため、「状況把握」「支援検討」「支援実施」という 3つのプロセスを体系化することを目指した。その中で、アセスメントシートを作成し活用することで、生徒に寄り添った個別指導を図ることとした。

(2) 豊かな人間関係づくりにつながる授業実践

日常的な生徒の見取りから実態を把握し、各学年に応じた人間関係づくりにつながる授業実践や提案授業を行う。生徒が自分を見つめ直したり、自分も他者も大切にしたい関わり方を考えたりすることで、生徒の自己指導能力を育成し、生徒同士でより豊かな人間関係づくりができるようにする。

Ⅲ 研究の内容

1 協働支援体制の構築

個に応じたきめ細やかな指導を行うため、「状況把握」「支援検討」「支援実施」の三つのプロセスを体系化し、繰り返していくことで、協働支援体制の構築を図ることとした。

本校は生徒数も職員数も多いため、生徒指導部会や教育相談部会で出席者を分けて支援検討を行っている。生徒指導主事は、各部会に参加しており、様々な教職員と関わる事ができる（図1）。

生徒の「状況把握」のため、生徒の様子を多面的・多角的に捉えられるようなアセスメントシートを作成した（p. 113 資料1参照）。作成に当たっては、SCやSSWから助言を受け、医療的・福祉的の観点を取り入れ、様々な職員と協議をして支援検討ができるようにした。また、担任や副担任、部活動顧問等、複数の教職員で生徒に関わるという利点を生かした項目とした。

「支援検討」では、作成したアセスメントシートを生徒指導部会や教育相談部会において教職員に配付し、生徒の情報を共有しながら検討を行った（図2）。部会だけでなく、必要に応じて、SC、SSW、SA、ODSも交えながら検討する場を設けた。そして、支援の方針と教職員の役割を明確にし、具体的な支援策を決定した。「支援実施」では、決定した方針や役割に基づいて、教職員及び関係職員で生徒に支援・指導を行った（表1）。

この三つのプロセスを繰り返しながら、個別指導の方針と役割分担を明確にし、教職員による協働支援体制の構築を進めたことで、個に応じたきめ細やかな指導・支援の充実につながった。

2 豊かな人間関係づくりにつながる授業実践

(1) SOS の出し方に関する教育

自身の心を見つめ、少しでも自分の思いを他者に発信できるようにするために、今ストレスを抱えているか、そのストレスの原因は何か、今後どんなストレスを抱えそうか等を

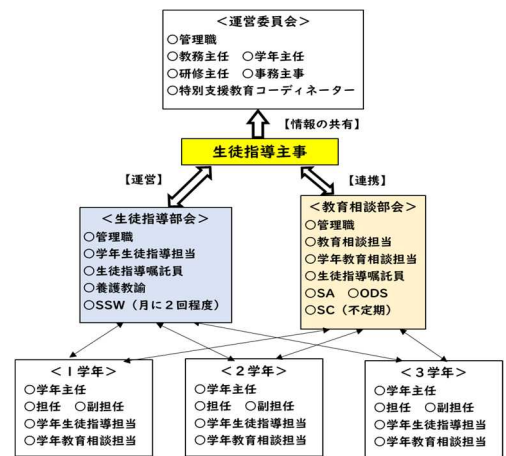


図1 生徒指導主事の関わり方（イメージ図）



図2 支援策を検討する様子

表1 実際に行った支援の例

＜今年度行った支援＞
・SCと保護者や本人との面談の実施
・支援センターと連携し個別ケース会議の実施
・SSWと行政による福祉的支援の検討（子育て支援課との連携）
・各職員による支援の方向性の擦り合わせ
・相談室利用や家庭訪問を含めた生徒の実態に合った個別支援の検討
・医療機関との連携の検討 等

図3 ワークシート

考え、友達と共有しながらストレスや苦境の際の対処方法について意思決定していく授業を、生徒指導主事として提案した。群馬県中学生版『『SOS の出し方に関する教育』プログラム』を土台に、新しい生活様式も含めて2学年部会で検討した上で、2学年全クラスで学級活動として行った。授業では、ワークシート(図3)に自分の考えを書き、隣同士の意見交流を行った。その後、短冊に書いた自分の考えを黒板に貼り全体でグルーピングすることで、クラスの仲間の様々な考えに触れられるようにした(図4)。



図4 「SOS の出し方」に関する授業の様子

実践後、「SOS の出し方に関する教育」の指導案やワークシート、提示資料等、授業実践の概要及び生徒の反応を、生徒指導部会と教育相談部会で伝えることで、他学年でも生徒の実態に合わせて授業が行えるようにした。

(2) アサーション・トレーニング

本校で昨年度から取り上げている、相手も自分も大切にしたい話し方を考える「アサーション・トレーニング」の授業を生徒指導主事として学年部会に提案した。

アサーティブな関わり方のよさを知ることで、自分自身を振り返り、日頃の他者との関わり方を見直し、生徒が、これから自分も他者も大切にして関わるにはどうすればよいかを考え、「さわやか宣言」を作成することとした。

生徒の実態を把握するため、自分の意見が言いづらい場面についてアンケートをとった。「班の話合い活動の中で、自分と違う意見の生徒が先に発表すると、自分の意見が言いにくくなる」という回答が2割に上った。そこで、そのような場面を設定し、「どのような言葉を使えば、相手も嫌な思いをせず、自分の意見も伝えることができるのか」について考えることとした(表2)。

表2 アサーション・トレーニングで設定した場面

2次のような場面ではどうしよう?*
生徒A:英語の授業でALTの先生に自分の行きたい都市をグループで紹介することになった。自分はニューヨークに首から行ってみたいと思っていたので、ぜひアメリカについて発表がしたと考えている。
生徒B:ハリーポッターの映画が大好きなため、自分はぜひイギリスについて調べたい。
<シナリオ>
グループ:じゃあどの国を調べる? 生徒B:イギリスがいいな。ハリーポッター大好きなんだ!
グループの他の生徒:いいね!
生徒A _____

提案授業では、「SOS の出し方」に関する授業と同様に、短冊を活用して黒板上で生徒の意見を共有し、お互いを大切にするための共通の言葉を見付けたり、考えた言葉を使って実際に話をしたりする活動を設定した。

提案授業後に、2学年部会で再検討して提案用指導案(p.114資料2参照)を作成し、2学年全クラスで学活の時間に各担任が授業実践を行った。

「さわやか宣言」は模造紙に貼って廊下に掲示し、生徒が互いの宣言を読んで理解したり、自分の宣言を振り返ったりすることができるようにした(図5)。さらに、日常の学校生活で「さわやか宣言」をどれほど意識できているか振り返る機会を設けた。



図5 「さわやか宣言」を掲示した様子

III 結果と考察

アセスメントシートの作成と活用により「状況把握」「支援検討」「支援実施」のプロセ

スを積み重ねることで、組織的な指導・支援が進んだ。関係職員も、アセスメントシートを共有し生徒指導部会や教育相談部会に参加することで、生徒の学校生活や家庭の状況を把握し、カウンセリングや家庭訪問等、効果的な個別指導に役立てていた。教職員間においても、これまで以上に生徒に関する情報交換を行う様子が見られるようになった。また、方針と役割を明確にしたため、生徒に寄り添った指導につながった。以上のことから、協働支援体制の構築によって個に応じたきめ細やかな指導の実現が図られたと考えられる。

「SOS の出し方に関する教育」の授業後に、「自分だけが苦勞しているわけでないと感じて安心した」という感想を書いている生徒も多く、さらに「仲間が悩んでいたら積極的に声をかける」と友達への関わりを増やそうとする思いを書いた生徒も各クラスで半数以上いた(図6)。また、「さわやか宣言」作成後の生活記録の振り返りにおいて、部活動や日常の会話の中でも意識的に言葉を使っていると記述する生徒もいた(図7・8)。学級での生活、生徒会活動、部活動等、日常の様々な集団の中で、自分の思いを話したり、友達の思いを受け止めたりする生徒たちの姿が見られたことなどから、二つの授業実践がよりよい人間関係づくりの支援につながったと考えられる。

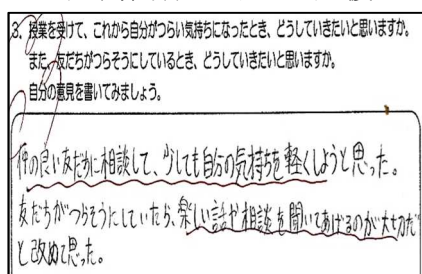


図6 授業後の感想

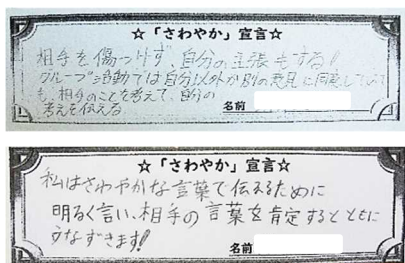


図7 実際の「さわやか宣言」

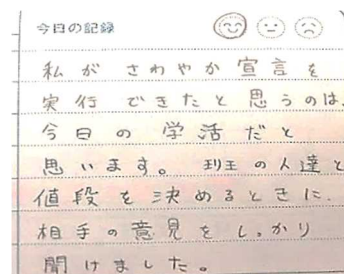


図8 授業後の生活記録

V 研究のまとめ

1 研究の成果

- アセスメントシートを作成し、支援のプロセスを体系化したことによって、生徒に関する情報を集約し、学校の方針や教職員の役割分担に明確したことで、生徒に寄り添った個別指導が充実してきた。その中で、生徒と教職員の信頼関係が強くなり生徒が前向きになったという事例もあった。
- 授業実践により、様々な学校生活の場面で自分も相手も大切にしようとする生徒の意識が高まり、生徒同士の豊かな人間関係づくりの一助となった。
- 二つの手立てによって、これまで以上に情報が集まるようになり、生徒指導主事として生徒指導上の課題を把握しやすくなったと同時に、組織的な生徒指導が充実してきた。

2 今後の課題

- 生徒指導主事として、生徒に寄り添ったきめ細かな指導のさらなる充実に向けて、アセスメントシートの様式の簡略化や諸会議の開催方法等を工夫し、各職員と連携を図っていくことが求められている。
- 集団指導として、校内研修部と連携した、豊かな人間関係づくりにつながる授業を、意図的・系統的に行っていく必要がある。

参考文献

- 群馬県こころの健康センター (2019) . 群馬県中学生版「SOS の出し方に関する教育」プログラム
- 埼玉県立総合教育センター (2011) . よりよい人間関係をはぐくむ「アサーション・トレーニング」指導プログラムの開発に関する調査研究

資料1 「大胡中アセスメントシート」

記録作成日				年 月 日 ()				
大胡中学校アセスメントシート				記録者				
フリガナ		性別	生年月日	20 年 月 日 (I 歳)				
氏名		身長 cm	体重 kg	学級 年 組	担任			
住所 〒								
家族構成・家庭環境	<input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 両親 <input type="checkbox"/> 母子 <input type="checkbox"/> 父子 <input type="checkbox"/> 養父母 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> きょうだい関係 () <input type="checkbox"/> 経済状況 <input type="checkbox"/> 要保護家庭 <input type="checkbox"/> 準要保護家庭 <input type="checkbox"/> 生活保護 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 子育ての状況 <input type="checkbox"/> 虐待(身体・精神・ネグレクト・性) <input type="checkbox"/> 過干渉 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 保護者の協力度 <input type="checkbox"/> 取れない <input type="checkbox"/> 取りにくい <input type="checkbox"/> 普通/協力的 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 家族の不登校や精神疾患歴 <input type="checkbox"/> 保護者() <input type="checkbox"/> きょうだい() <input type="checkbox"/> 祖父母() <input type="checkbox"/> その他の特記事項			成 育 歴	20 年 出生 20 年 月 保育園・幼稚園 20 年 月 小学校入学 <input type="checkbox"/> 小学校からの引き継ぎ			
	<input type="checkbox"/> 問題行動のきっかけ・理由 <input type="checkbox"/> 病気・身体の不調 <input type="checkbox"/> 家庭環境(生活習慣の乱れ) <input type="checkbox"/> 友人関係の問題 <input type="checkbox"/> いじめ等 <input type="checkbox"/> 学業上の問題 <input type="checkbox"/> 学校環境の変化(クラス替え・班替え等) <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 本人の性格 <input type="checkbox"/> まじめ <input type="checkbox"/> 周りの刺激に敏感 <input type="checkbox"/> 孤立感 <input type="checkbox"/> 内向的性格 <input type="checkbox"/> 幼い <input type="checkbox"/> 被害的思考 <input type="checkbox"/> 緊張しやすい <input type="checkbox"/> 自己中心的 <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 生活・心理・健康面 <input type="checkbox"/> 生活リズムの乱れ(昼夜逆転、ゲイ等) <input type="checkbox"/> 食事習慣の乱れ(朝・夕) <input type="checkbox"/> 依存() <input type="checkbox"/> 服装の問題(清潔度等) <input type="checkbox"/> 自傷行為 <input type="checkbox"/> 他害行為 <input type="checkbox"/> 不眠 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に) <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <input type="checkbox"/> 学校生活で気になるところ <input type="checkbox"/> (読む・書く・計算する) <input type="checkbox"/> 多動・衝動性 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 感覚過敏 <input type="checkbox"/> 学習 <input type="checkbox"/> 対人関係(孤立・かん黙・トラブル) <input type="checkbox"/> リストカット <input type="checkbox"/> 過食・拒食・嘔吐 <input type="checkbox"/> 気分不安定 <input type="checkbox"/> 抜毛 <input type="checkbox"/> 被害妄想 <input type="checkbox"/> 盗み <input type="checkbox"/> 虚言 <input type="checkbox"/> 性別違和 <input type="checkbox"/> その他の特記事項			備 考				
本人の状況・学校での様子				欠席日数	担任教諭			
				1年				
				2年				
				3年				
				20 年度 出席等状況				
				総数	欠席	遅刻	早退	出席
				4月				
				5月				
				6月				
				7月				
				8月				
				9月				
				10月				
			11月					
			12月					
			1月					
			2月					
			3月					
			合計					

資料2 授業実践提案用指導案（アサーショントレーニング）

※提案授業を基に2学年で再検討した提案用指導案

学級活動指導案	
1 ねらい 学校生活の場面を取り上げ、言葉の使い方が異なる同一状況を見てどのように感じるかを考え、自分も相手も配慮しながら自分の考えや思いを相手に伝える表現方法を学び、日常生活での他者とのよりよい関わり方を自己決定していく。	
2 本時の展開	
学習活動	指導上の留意点・支援 【評価項目】
1 本時のめあてをつかむ (1)昨年度学習したアサーショントレーニングを思い出すために、パターニングを思い出させて、3つの表現を確認し、自分が今どのパターンに近いか手を挙げる。 (2)めあてを確認する。ともにさわやかな定義を再確認する。	10分 5分
2 話し合う (1)さぐる シナリオを確認し、今の自分ならどんな言葉を使うかをワークシートに記入する。 「皆さんは生徒Aです。グループで調べ学習をする都市を1つ決めます。話し合いの際には自分が考えている場所とは違います。皆さんならどのように自分の意見を言いますか。」	10分
(2)見付ける。 ○アサーティブな表現が良いことを確認し、先ほど考えたシナリオで生徒Aアサーティブな表現を使うとしたらどのような台詞になるかを短冊に記入し、黒板に貼る。	10分
3 振り返り ○ワークシートに今日の授業の感想を記入する。	5分
○友だちの発表を聞くことにより、色々な言い方があることを全体で改めて確認する。 ○各自で黒板に短冊を貼り、すべての言葉を発表しなくても生徒が読めるようにする。 ○全体の表現を見て、アサーティブな言葉の中で共通点等に気付かせることで、実際にどのような使い方をするとアサーティブな表現になるかを具体的に考えるようにする。 ○短冊を貼る場所について、最初の集団から似たようなものを近くにして貼らせることで、共通点を考えやすくなる。 ○身振りや抑揚など非言語的な部分にも焦点を当てられるよう、生徒のつがやや意見を聞き流さないようにする。	10分
○様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりしている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言・ワークシート)	
○本時の授業を通して、今後アサーティブな表現の特徴を踏まえて宣言を書くことで、実生活での言葉の使い方の意識を高められるようにする。 ○本授業を通して、どのようなことを考えたかを文面に書くことで、自分自身の考え方や感じ方の変化を、授業後にも確認できるようにする。 ○相手を傷つける言葉ではなく、相手のことを配慮した言葉遣いを考えさせることで、今後の円滑なコミュニケーションにつなげられるように声かけする。	5分